

戦略的評価

～市場間の連携サービスの利用動向～

市場間の連携サービス アウトライン

市場間の連携サービス開始の背景

連携サービスの概況

固定型の連携サービス

FMC型の連携サービス

連携サービス間の比較

ソフトフォン

事業者グループの状況

市場間の連携サービス開始の背景(1) ~ 連携サービスの類型・意義

<現在の市場画定>

●固定／移動と音声／データを区別

- ・固定系通信(音声): 5,679万(2012末)
- ・固定系通信(データ): 3,530万(2012末)
- ・移動系通信(音声): 1億1,468万(2012.3)
- ・移動系通信(データ): 1億2,330万(2012.3)

<市場環境の変化>

●IP化の進展(2008.3vs2012末)

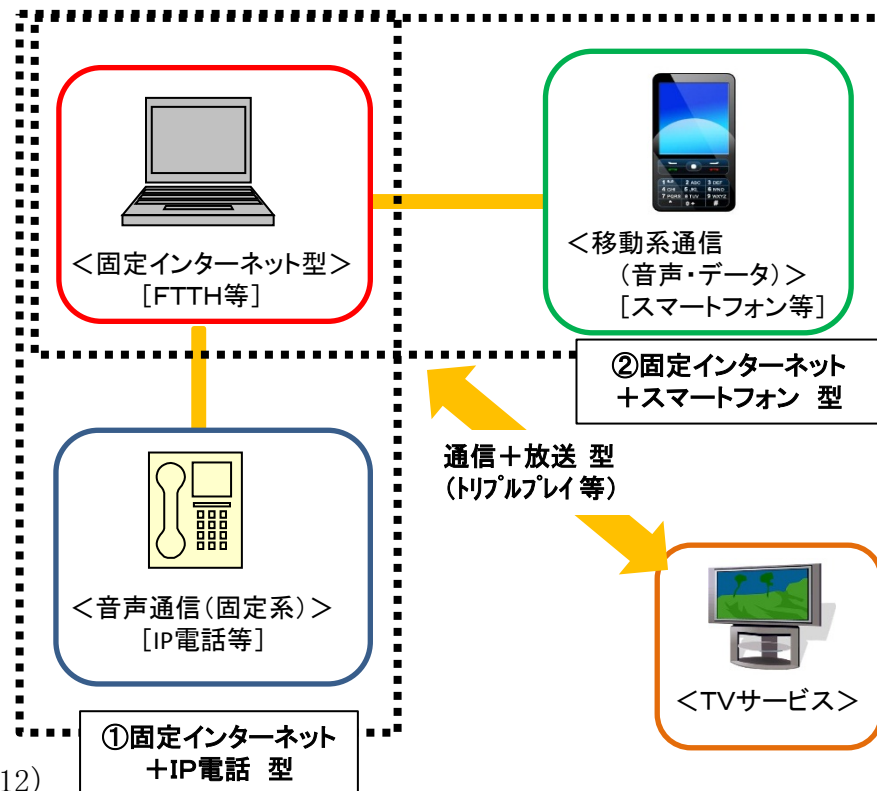
- 固定系通信における音声・データ契約数の収れん
 - ・NTT東西加入電話: 4,555万 → 2,921万(▲36%)
 - ・IP電話: 1,754万 → 3,051万(+74%)
 - ・固定インターネット: 2,874万 → 3,530万(+23%)
- ⇒「①固定インターネット+IP電話型」(固定型)の連携サービスの普及

●スマートフォン等の普及

- スマートフォンやデータ通信専用サービスの普及
 - ・データ通信契約(増加率): 7.9%(2010/2011) → 10.4%(2011/2012)
 - ・フィーチャーフォンと比較したスマホ等利用料の高額化
 - ・オフロード率推計: 19.7%(2012) → 64%(2015)
 - ・インターネット利用のモバイルシフト
 - ・ソフトフォン等による音声通話全体のIP化とモバイルシフト
- ⇒「②固定インターネット+スマートフォン型」(FMC型)の連携サービス開始

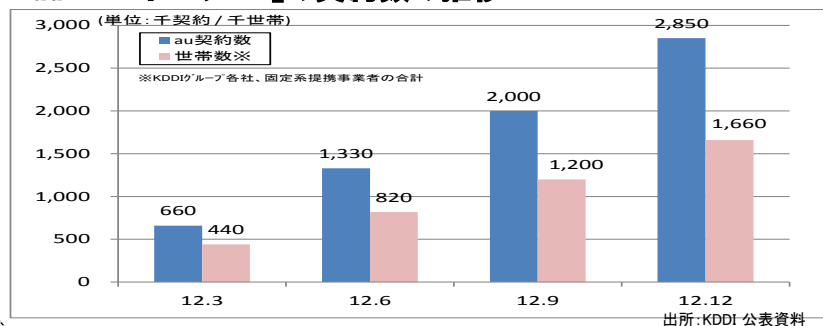
市場モニタリングの参考指標としての
市場間の連携サービスの必要性

【連携サービスの類型】



【「固定インターネット+スマートフォン」型サービス例

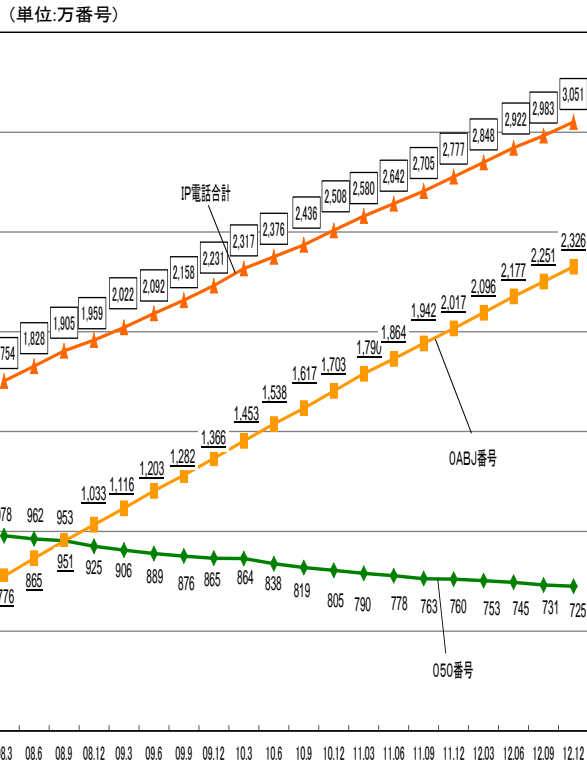
「auスマートバリュー」の契約数の推移



市場間の連携サービス開始の背景(2) ~ 各サービスの契約数の推移

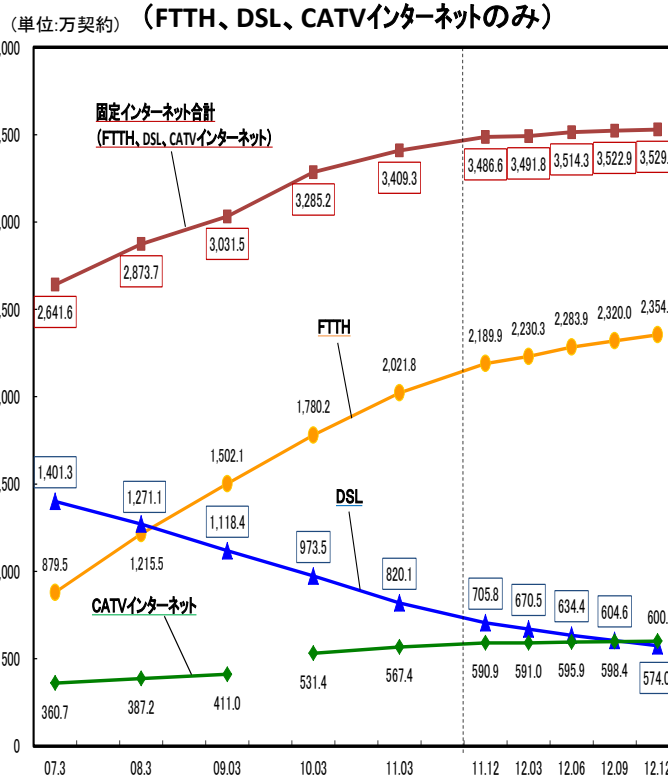
- 固定IP電話の契約数は、OAB～J IP電話の増加が寄与して増加基調。
- 固定インターネットの契約数は増加が続いているものの、成長率は鈍化傾向。

【固定IP電話の契約数の推移】



出所:総務省資料

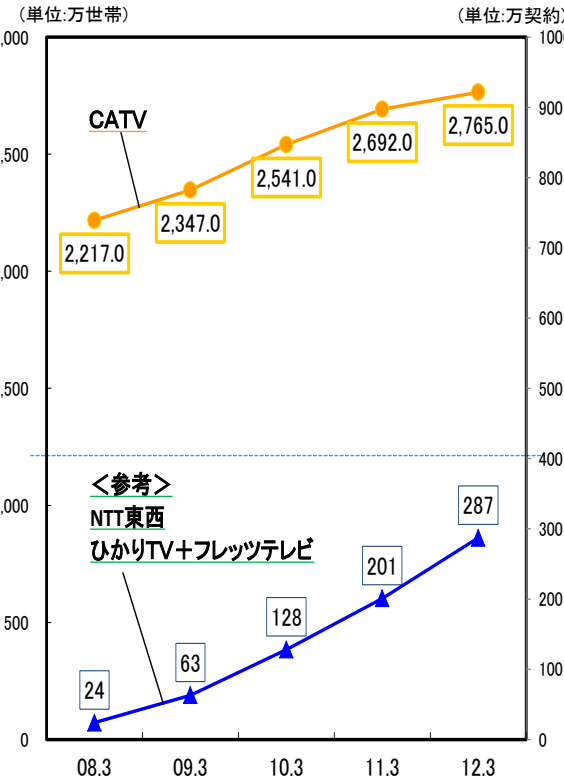
【固定インターネットの契約数の推移】



※ 一部の事業者より契約数について集計方法の変更が報告されたため、10年3月末のブロードバンド合計及びCATVインターネットの契約数及びシェアについて、前期との間で変動が生じている。

出所:総務省資料

【CATVの加入世帯数の推移】













出所:「ケーブルテレビの現状」(総務省) 及びNTT東西公表資料

連携サービスの概況(1) ~ 固定型の連携サービス

- NTTやKDDI、ソフトバンクといった主要な通信事業者は、固定インターネット(FTTH、ADSL)利用者に対し、一定の追加料金(一部のサービスは無料)で固定電話サービスを利用可能とする、「固定型の連携サービス」を提供している。

















【固定型の連携サービス(固定インターネット+固定電話)の例】

事業者	サービス名称	固定インターネット	+	固定電話	サービス内容
NTT	フレッツひかり ひかり電話	 FTTH FLET'S 光		 0AB~J番 IP電話 ひかり電話 電話サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット月額利用料にプラス525円/月で固定電話(0AB~J番号IP)を利用できる。 ・加入電話と同等のオプションサービスも利用できる。
KDDI(au)	auひかり 電話サービス	 FTTH auひかり		 0AB~J番 IP電話 auひかり電話	<ul style="list-style-type: none"> ・auひかり月額利用料にプラス525円/月で固定電話(0AB~J番号IP)を利用できる。
	ADSL one メタルプラス	 ADSL ADSL one		 ドライカップ電話 メタルプラス	<ul style="list-style-type: none"> ・ADSL one月額利用料にプラス315円/月で固定電話を利用できる。
ソフトバンクBB	ホワイトBB	 ADSL (下り最大50M 上り最大3M)		 050-IP電話 BBフォン	<ul style="list-style-type: none"> ・1,980円/月でネット加入するとIP電話が基本料無料で利用できる。BBフォンユーザ同士は24時間通話無料。 ・ホワイトプランに加入しているソフトバンク携帯であれば24時間通話無料。
ケイ・オプ ティコム	eo光 eo光電話	 FTTH eo光		 0AB-J IP電話 eo光電話	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット3,700円+アダプタ利用料300円の計4,000円/月(※)でネットに加え、固定電話が実質基本料無料で利用できる。 ※マンションタイプ

連携サービスの概況(2) ~ FMC型の連携サービス

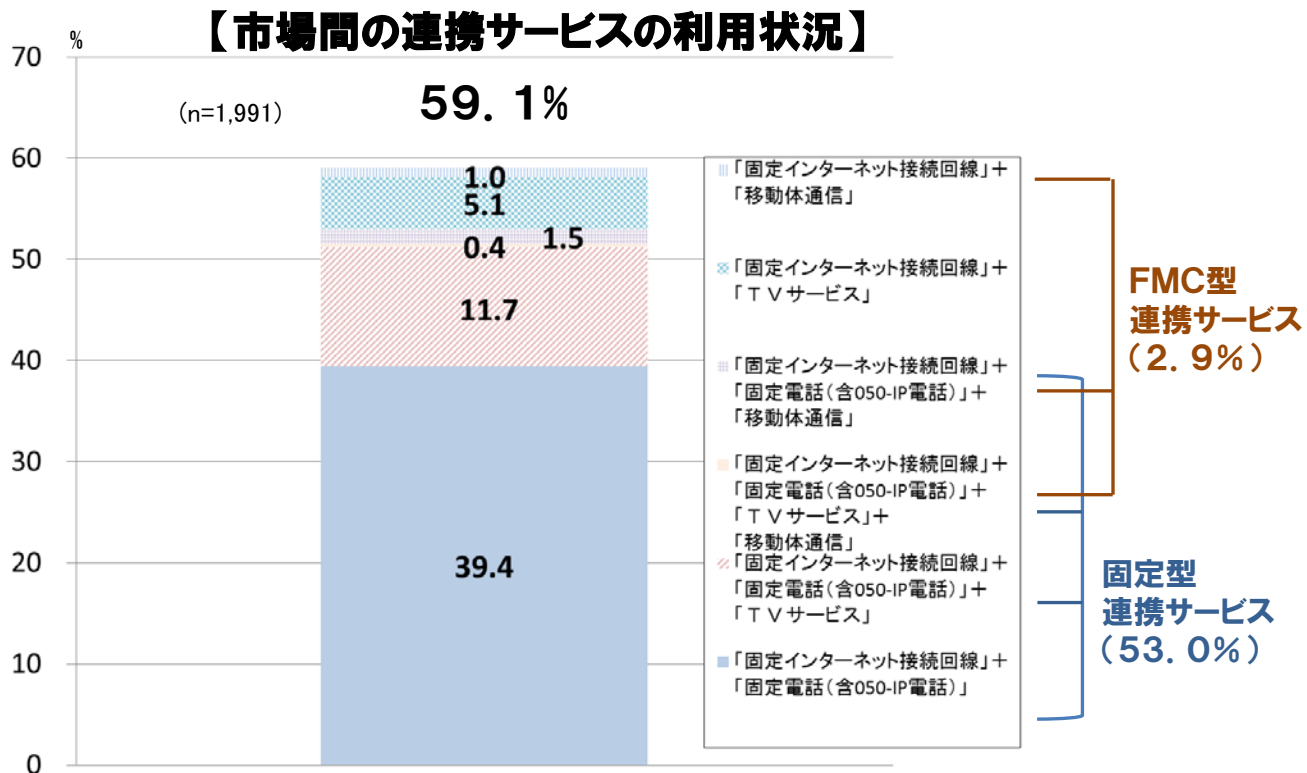
- FMC型の連携サービスは、従来の音声系サービスに加え、データ通信系サービスが新たに開始されている。

【FMC型の連携サービス(移動系通信+固定通信)の例】

事業者	サービス名称	対象	移動系通信	固定通信	サービス内容
KDDI(au)	auスマートバリュー (2012年2月開始)	データ	 <ul style="list-style-type: none"> データ通信(LTE/3G) LTEフラット等 スマートフォン auスマートフォン 	+ and  <ul style="list-style-type: none"> FTTH auひかり  CATV J-COM JCNV 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・auスマートフォン等の利用料金から 1,480円/月割引(最大2年間) ・家族の人数分について同額割引 ・固定系は <u>提携事業者のサービスからも選択可</u>。
	auまとめトーク (2008年8月開始)	音声	 <ul style="list-style-type: none"> 音声通話 ※全プラン 携帯電話 スマートフォン auケータイ 	+  <ul style="list-style-type: none"> FTTH auひかり電話  ADSL ADSL one メタルプラス CATV J-COM PHONE  等 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国のauケータイやauおうち電話への 通話が無料 ・固定系は <u>提携事業者のサービスからも選択可</u>。
ソフトバンクモバイル	スマホBB割 (2012年3月開始)	データ	 <ul style="list-style-type: none"> データ通信(LTE/3G) パケットし放題フラット等 スマートフォン タブレット iPhone iPad(WiFi+Cellular) ソフトバンクスマホ 	+ and/or  <ul style="list-style-type: none"> (FTTH) Yahoo!光 ひかりdeトーク ADSL ホワイトBB (Yahoo!BB) CATV FTTHはiPadのみ ケーブルライン 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバンク スマートフォン/iPad の利用料金が 1,480円/月割引(最大2年間)。 ・家族の人数分について同額割引 ・固定系は <u>ソフトバンクのサービスから選択</u>。
	ホワイトコール24 (2008年6月開始)	音声	 <ul style="list-style-type: none"> 音声通話 ホワイトプラン 携帯電話 スマートフォン ソフトバンク携帯/スマホ 	+  <ul style="list-style-type: none"> FTTH ひかりdeトーク ADSL BBフォン CATV ケーブルライン 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバンクグループ内の携帯電話とIP固定電話サービス間の 通話が無料 ・固定系は <u>ソフトバンクのサービスから選択</u>。
日本通信(MVNO/Provider)	b-mobile FMC <small>Fixed Mobile Convergence for フレッツ光</small> (2012年2月)	データ	 <ul style="list-style-type: none"> WiFiスポット データ通信(3G)   WiFiルータ 3G SIM 	+  <ul style="list-style-type: none"> FTTH  	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内外のデータ通信(3G網、WiFi網、固定網)をパッケージ化。 ・フレッツ料金+1,560円(合計:5,130円)(単独契約の合計:10,545円※) ※ b-mobileウェブサイトより

連携サービスの概況 (3) ~ アンケート結果での利用状況

- 「固定インターネット」、「固定電話」、「移動体通信」、「TVサービス」から複数のサービスを組み合わせた連携サービスの利用者は回答者全体の59.1%。
- このうち、「固定型の連携サービス」が回答者全体の53.0%であるのに対し、「FMC型の連携サービス」は2.9%。

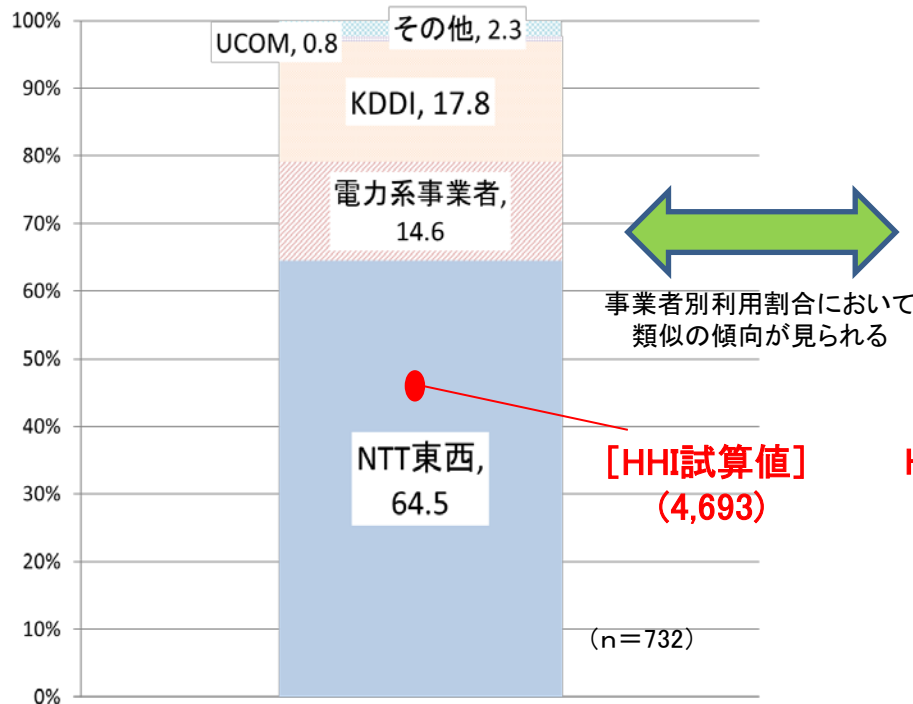


固定型の連携サービス（1） ～ 事業者別シェアの比較

- 固定型の連携サービス(FTTH+固定電話)に占めるNTT東西サービスの利用割合※は64.5%で、FTTH市場(72.9%)や固定電話市場(77.2%)における同社のシェアよりも低い。
- アンケート結果に基づき試算した連携サービスの市場集中度(HHI試算値)※は4,693で、FTTH(5,516)と固定電話(6,169)の市場集中度(HHI)よりも小さい。

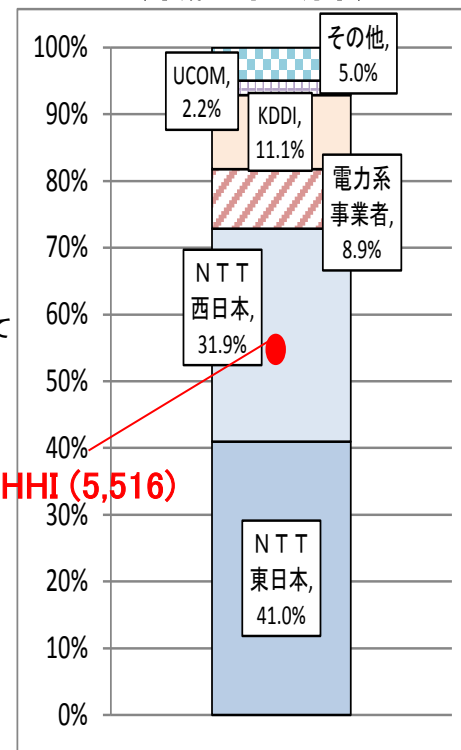
※ 連携サービスにおける事業者別利用割合及びHHI試算値については、FTTHをベースに算定。

【連携サービス(FTTH+固定電話)における事業者別利用割合】※

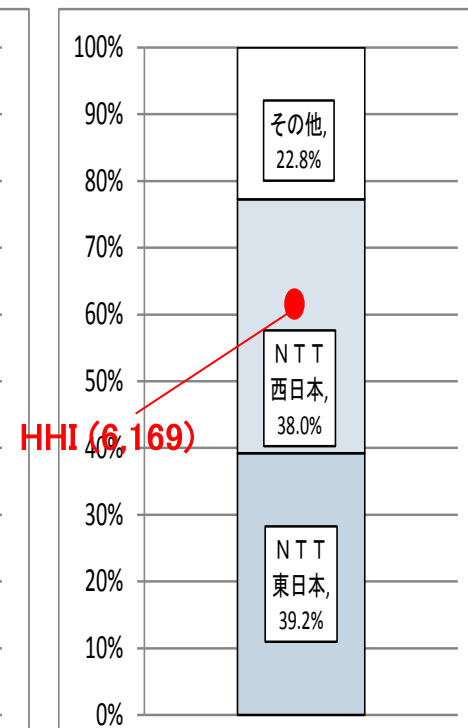


出所：競争評価2012利用者アンケート

【参考：FTTHサービスにおける事業者別シェア】 (平成24年12月末)



【参考：固定電話サービスにおける事業者別シェア】 (平成24年12月末)

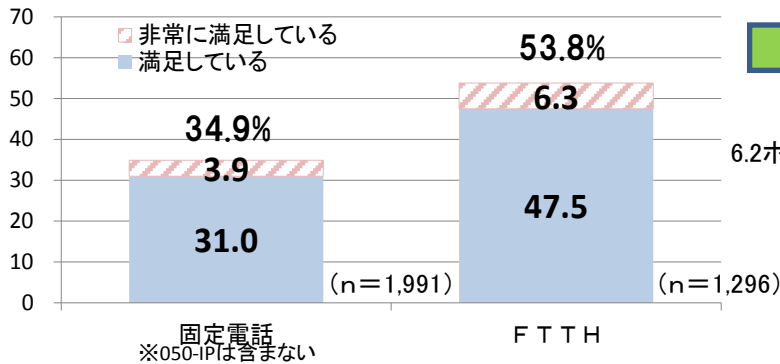


出所：総務省資料

固定型の連携サービス（2） ～ 利用者満足度の比較

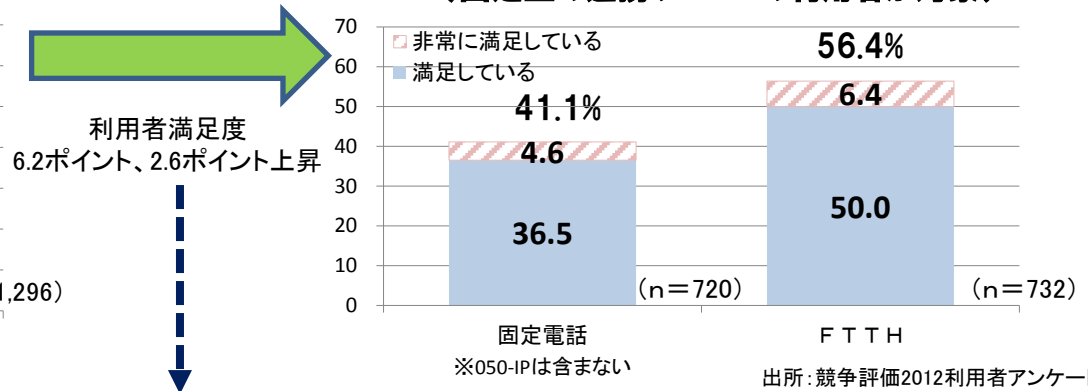
- 固定型の連携サービス（FTTH+固定電話）利用者のFTTH/固定電話に対する満足度は、FTTH、固定電話を個別で見た場合の満足度を上回る。
- 固定型の連携サービス（FTTH+固定電話）を選択した理由として、「一括契約による割引」といった料金面以外に「付加価値サービス」が挙げられている。

【利用者満足度】
（固定電話/FTTH）



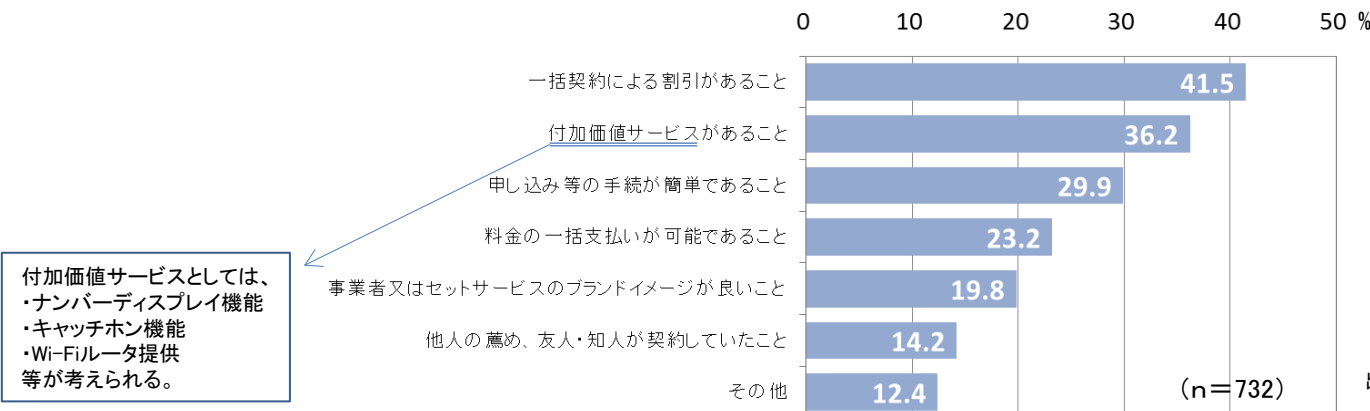
出所：競争評価2012利用者アンケート

【利用者満足度】
（固定型の連携サービスの利用者が対象）



出所：競争評価2012利用者アンケート

【サービス選択理由】（固定型の連携サービス（FTTH+固定電話））



付加価値サービスとしては、
・ナンバーディスプレイ機能
・キャッチホン機能
・Wi-Fiルータ提供
等が考えられる。

(n = 732)

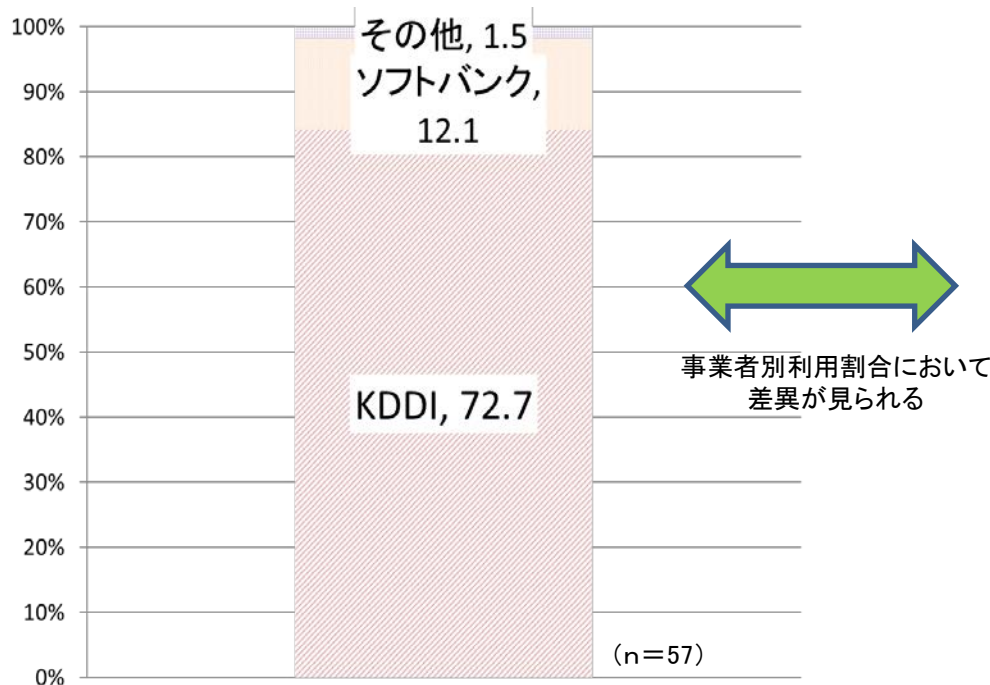
出所：競争評価2012利用者アンケート

FMC型の連携サービス（1） ～ 事業者別シェアの比較

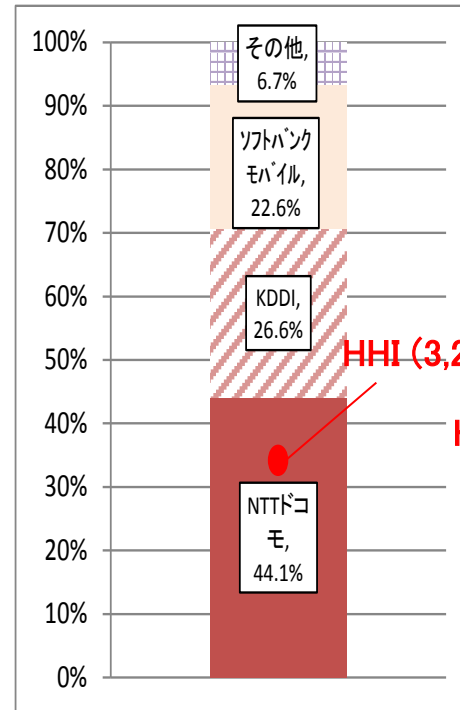
- FMC型の連携サービスにおける最大手はKDDIで、その利用割合は72.7%。
- FMC型の連携サービスにおける事業者別利用割合※を、移動系通信/固定インターネットにおける事業者別シェアと比較した場合、その傾向に差異が見られる。
- なお、FMC型の連携サービス利用者の回答数は限られており（n=57、回答者全体の2.9%）、アンケート結果に基づき試算した市場集中度（HHI試算値）による比較・分析は時期尚早。

※ 連携サービスにおける事業者別利用割合については、移動系通信をベースに算定。

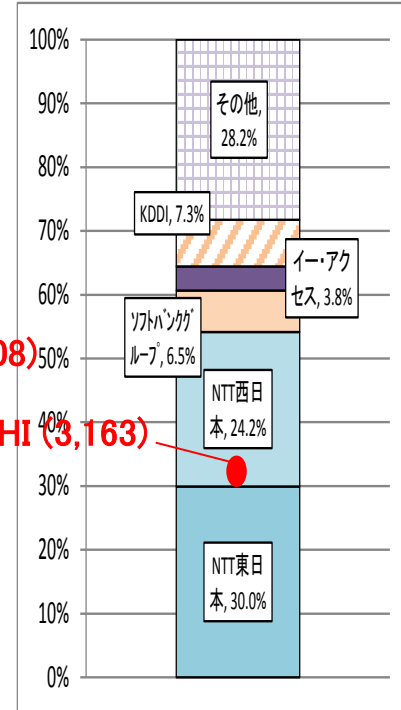
【FMC型の連携サービスにおける事業者別利用割合】



【参考：移動系通信サービスにおける事業者別シェア】
(平成24年12月末)



【参考：固定インターネットサービスにおける事業者別シェア】
(平成24年12月末)

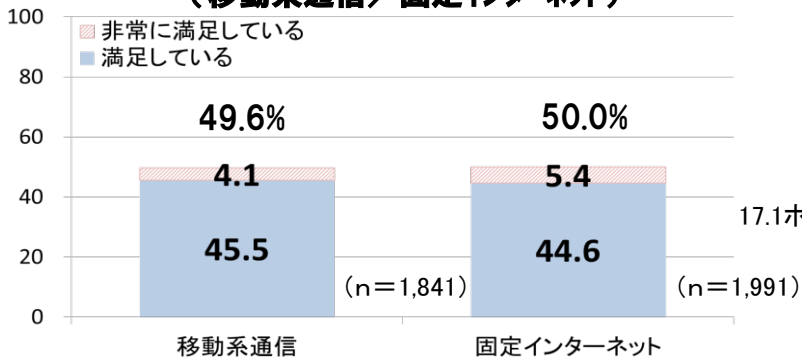


事業者別利用割合において
差異が見られる

FMC型の連携サービス (2) ~ 利用者満足度の比較

- FMC型の連携サービス利用者の移動系通信/固定電話インターネットに対する満足度は、移動系通信、固定インターネットを個別で見た場合の満足度を上回る。
- FMC型の連携サービスを選択した理由として、「一括契約による割引」と「料金の一括支払い」といった料金面の優位性が挙げられている。

【利用者満足度】
(移動系通信/固定インターネット)

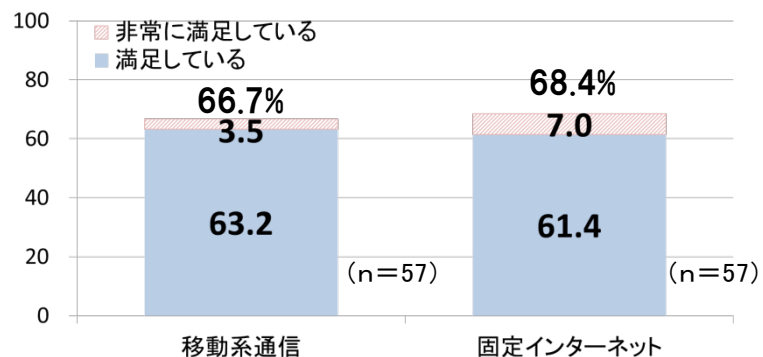


出所: 競争評価2012利用者アンケート



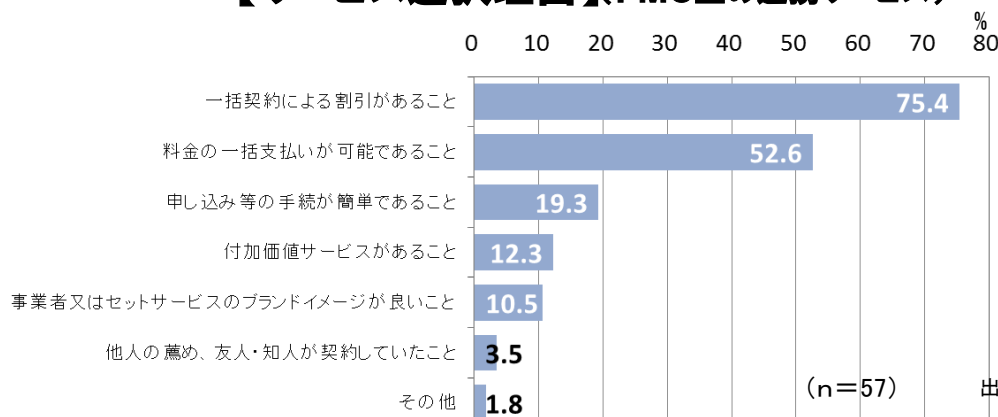
利用者満足度
17.1ポイント、18.4ポイント上昇

【利用者満足度】
(FMC型の連携サービスの利用者が対象)



出所: 競争評価2012利用者アンケート

【サービス選択理由】(FMC型の連携サービス)



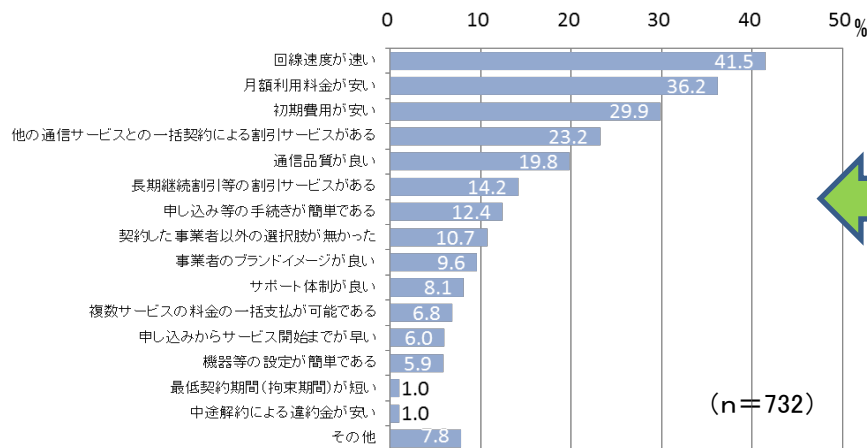
(n=57)

出所: 競争評価2012利用者アンケート

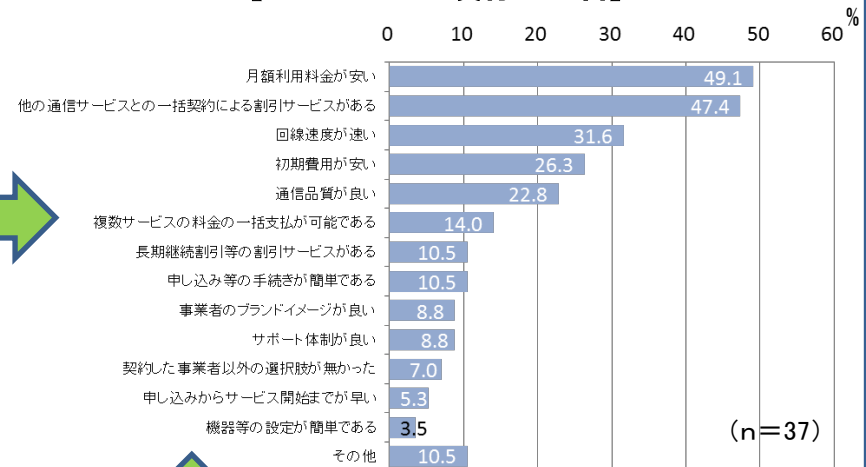
連携サービス間の比較(1) ~ サービス選択の理由

● FTTHサービスを契約した理由について、FMC型の連携サービス利用者は、固定型の連携サービス(FTTH+固定電話)利用者とは比べ、特に料金の安さや他の通信サービスとの一括契約による割引サービスを志向する傾向が見られる。

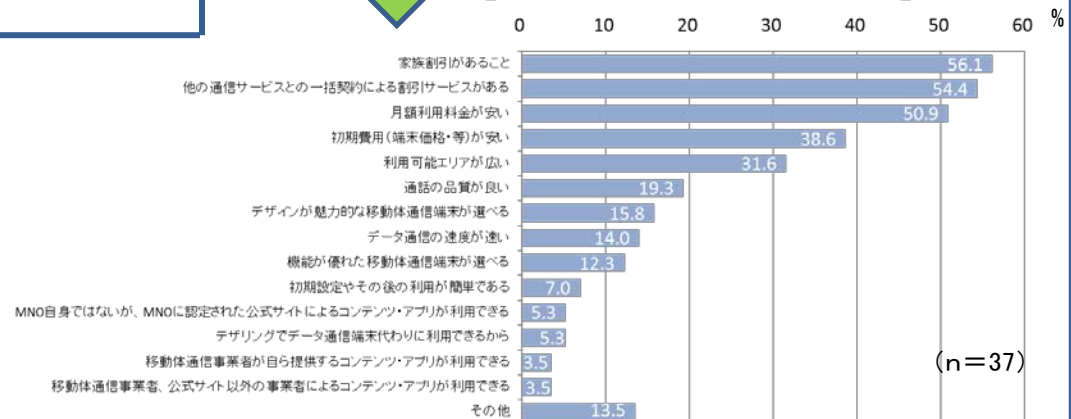
固定型の連携サービス(FTTH+固定電話)の選択者
【FTTHサービスを契約した理由】



FMC型の連携サービス(移動系通信+FTTH)の選択者
【FTTHサービスを契約した理由】



【移動系通信サービスを契約した理由】



ソフトフォン(1) ~ 主なサービス事例

- 主なソフトフォンは、チャット機能や同時通話等の付加サービスの特徴とするもの(LINE/カカオトーク/Comm)と、通話機能の特徴とするもの(skype/050plus)がある。

仕様/アプリ名		LINE	カカオトーク	Comm	Skype	050plus		
提供主体		NHN Japan	ヤフー等	DeNA	マイクロソフト	NTTコミュニケーションズ		
特色		<ul style="list-style-type: none"> • 世界で1億人以上が登録 • 画像や位置情報、絵文字添付 	<ul style="list-style-type: none"> • 無料通話・グループチャット等が可能 • 最大5人同時通話が可能 	<ul style="list-style-type: none"> • 高品質な通話をうたっている • 実名登録制推奨 	<ul style="list-style-type: none"> • アプリ利用者以外への通話も可能 • ビデオ通話が可能 	<ul style="list-style-type: none"> • アプリ利用者以外への通話も可能 • 電話番号が付与され、着信も可能 		
ユーザー登録		必要	必要	必要	必要	必要		
電話番号の利用(加入者以外からの着信可)		×	×	×	△ (サービス申込みにより可能 2,250円/3ヶ月)	○		
料金	基本料		無料	無料	無料	315円/月		
	通話料等	対加入者	無料	無料	無料	無料		
		フィーチャーフォンの利用		チャットのみ可能	×	チャットのみ可能	×	
		対加入者以外	固定へ	×	×	×	3.22円/分(日本)※	8.4円/3分
			携帯へ	×	×	×	17.5円/分(日本)※	16.8円/分
付加機能								
グループチャット		○	○	○	○	○		
同時通話、ビデオ通話		×	○(音声のみ)	×	○ (携帯からは音声のみ)	×		

※Skypeクレジットの料金

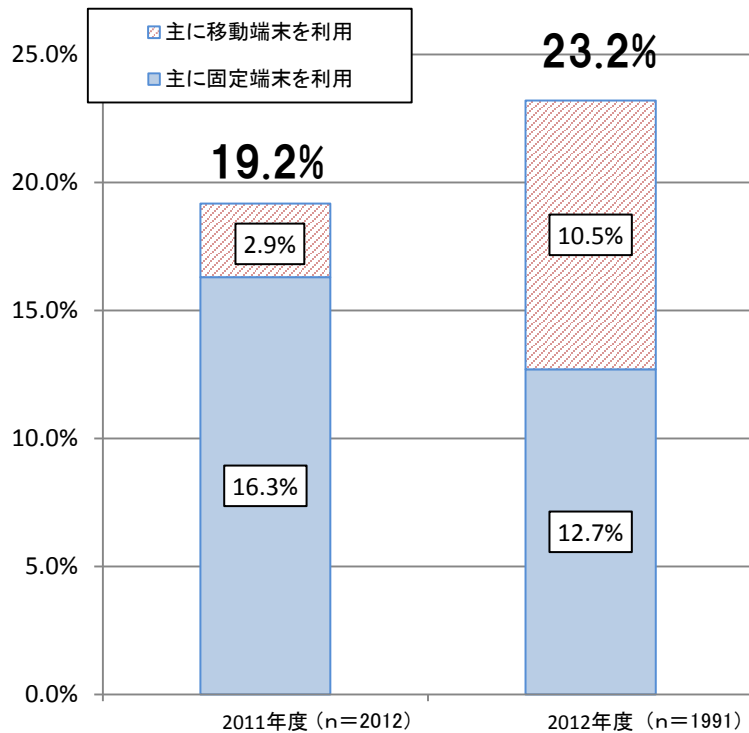
出所:各社ウェブサイト等より作成 [2013年4月時点]

ソフトフォン(2) ~ 利用率とサービス分類

- ソフトフォンサービスの利用率は、19.2% (2011年度調査) から23.2% (2012年度調査) に上昇。
- ソフトフォンを主に固定端末で利用する者の割合が減少する一方で、主に移動端末で利用する者の割合が大幅に上昇。その背景には、スマートフォンで利用可能なLINE等のコミュニケーションアプリの急速な普及がある。

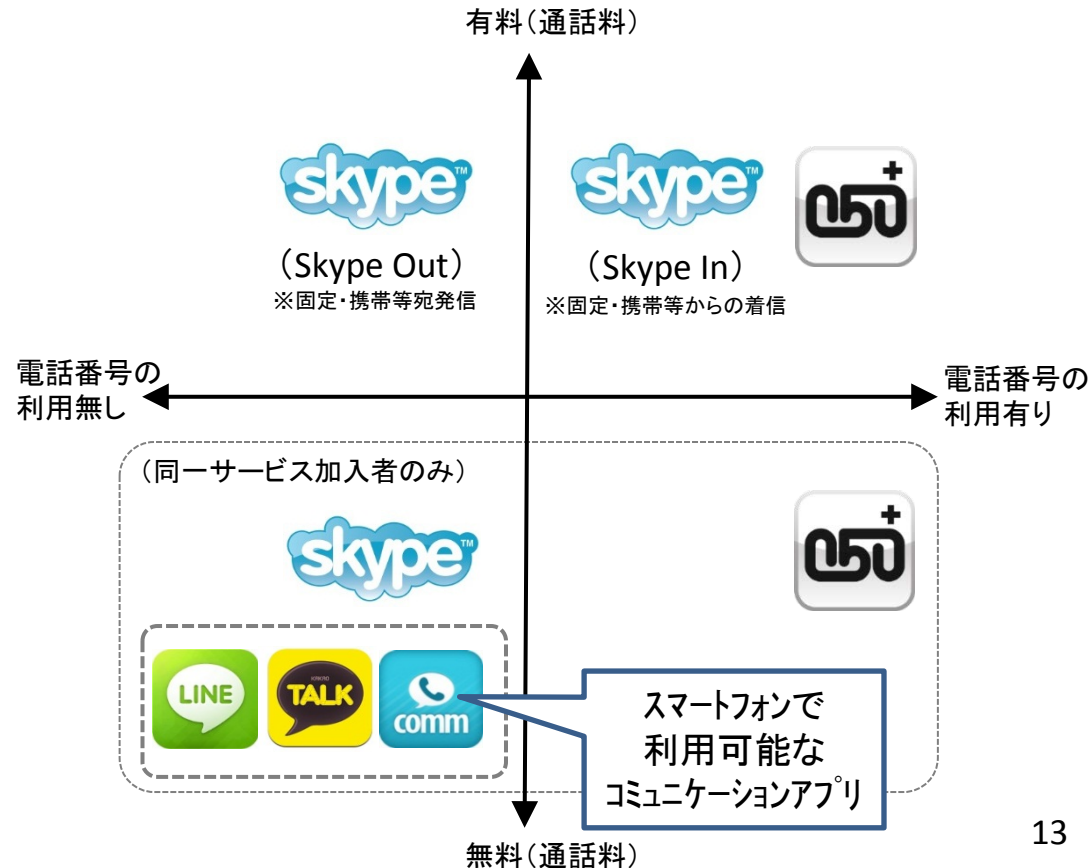
【ソフトフォンサービスの利用率】

※番号を使わないソフトフォンに限る。



出所: 競争評価2012利用者アンケート

【サービス特性に基づくソフトフォンサービスの分類】



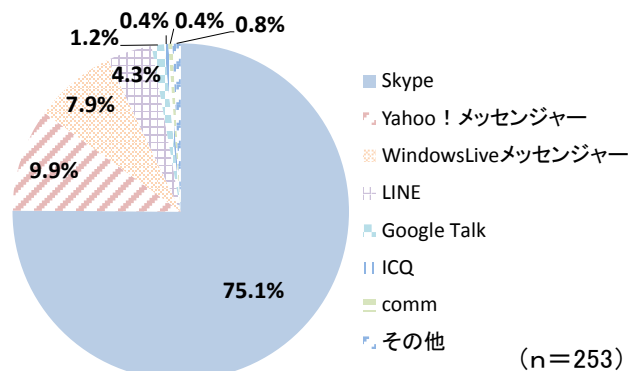
ソフトフォン(3) ~ 事業者別シェアと理由

- 主に固定端末を利用する者においては「Skype」の利用率が、主に移動端末を利用する者においては「LINE」の利用率が高い。
- ソフトフォンサービスを利用する理由としては、固定端末利用・移動端末利用ともに「料金が無料又は安いから」が最も高い。

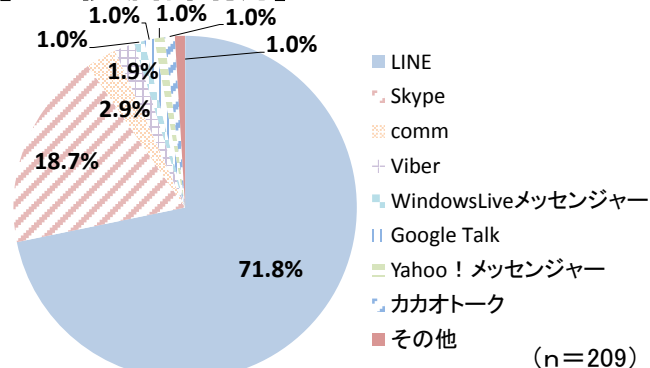
【ソフトフォンサービスの事業者別シェア】

※番号を使わないソフトフォンに限る。

【主に固定端末利用】



【主に移動端末利用】

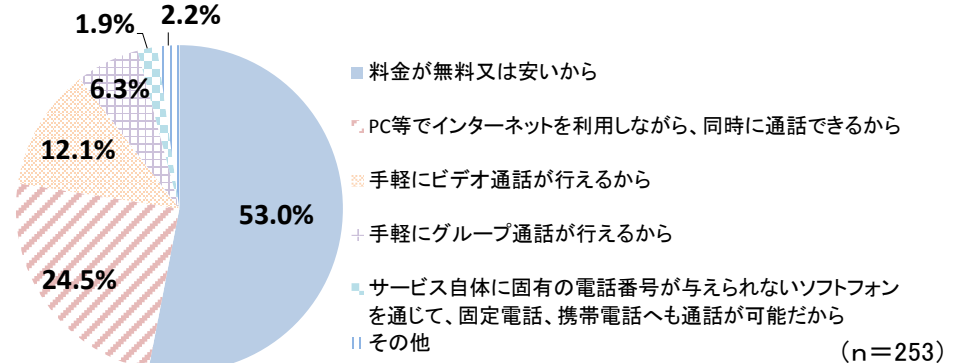


出所：競争評価2012利用者アンケート

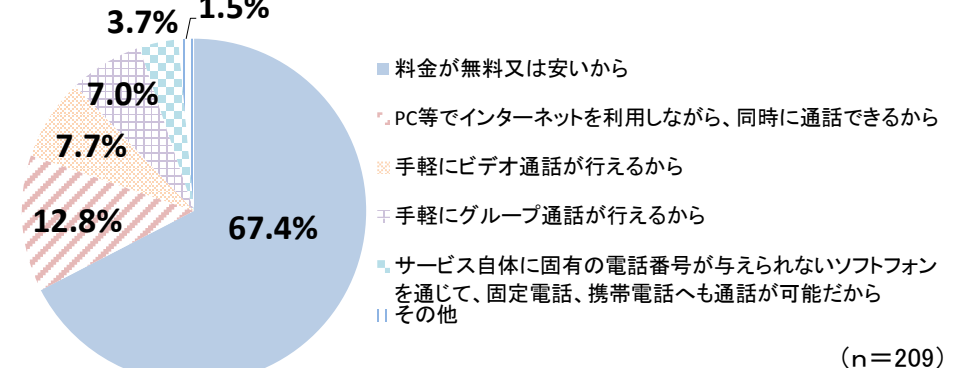
【ソフトフォンサービスを利用する理由】

※番号を使わないソフトフォンに限る。

【主に固定端末利用】



【主に移動端末利用】

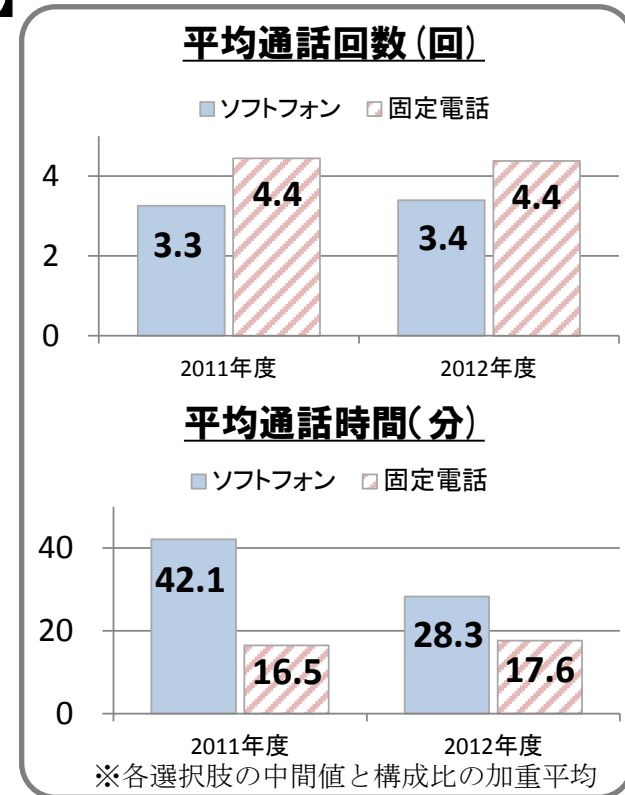
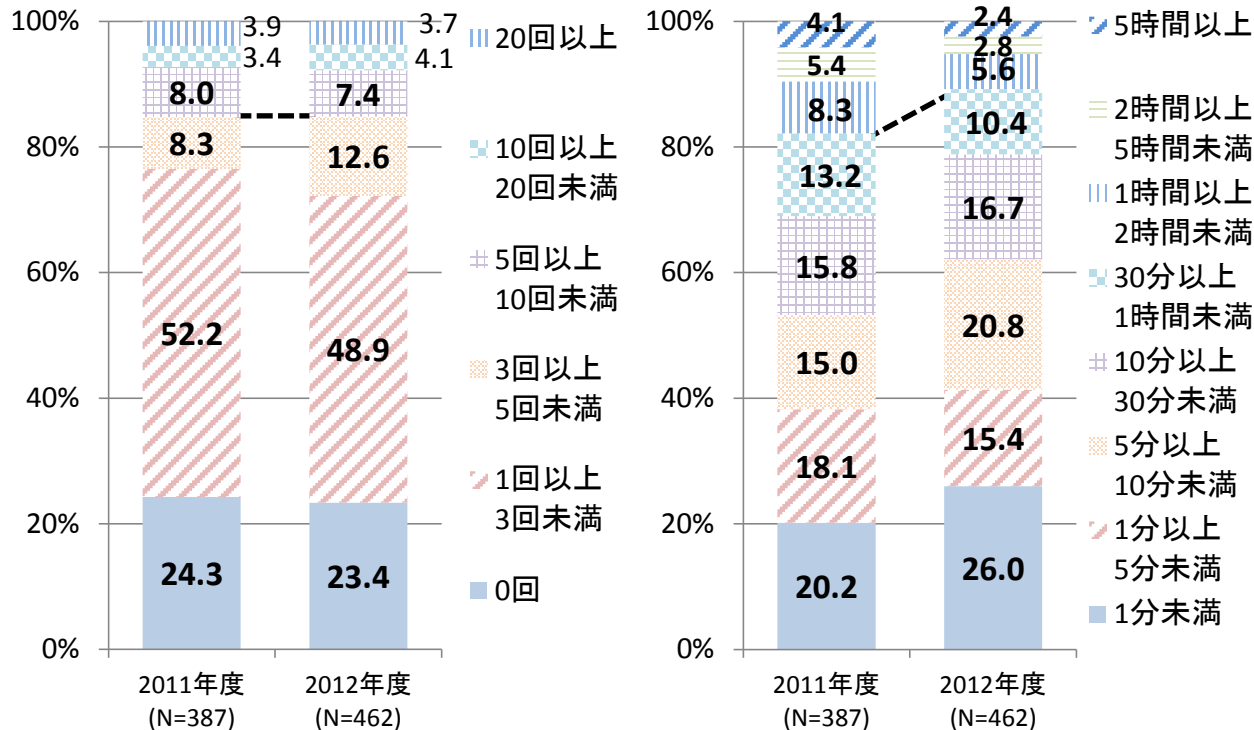


出所：競争評価2012利用者アンケート

ソフトフォン(4) ~ 通話回数と通話時間

- ソフトフォン利用者の一週間あたりの通話回数は、5回未満が84.9%(前年度84.8%)を占める。
- 一週間あたりの通話時間では、1時間未満が89.3%(同82.3%)を占める。
- ソフトフォンの平均通話回数に大きな変化はないが、平均通話時間は低下傾向。

【ソフトフォン利用者の1週間あたりの平均通話回数/通話時間】
※番号を使わないソフトフォンに限る。

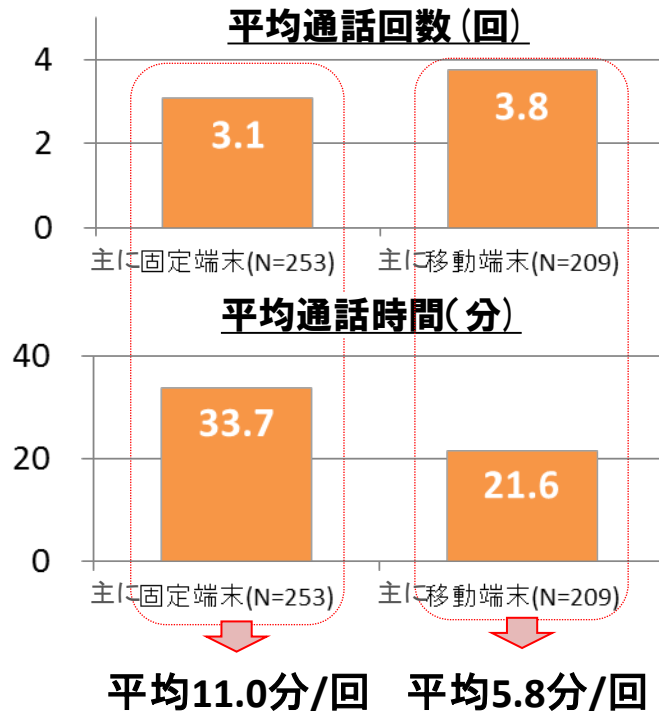


ソフトフォン (5)

- ソフトフォンの1回当たりの通話時間について、主に固定端末を利用する場合(11.0分)と主に移動端末を利用する場合(5.8分)とでは大きな相違が見られる。
- ソフトフォン利用時の移動端末としては、スマートフォンが大きな割合を占める中、タブレット型端末も普及しつつある。

【ソフトフォンの単位当たりの通話時間の分布】

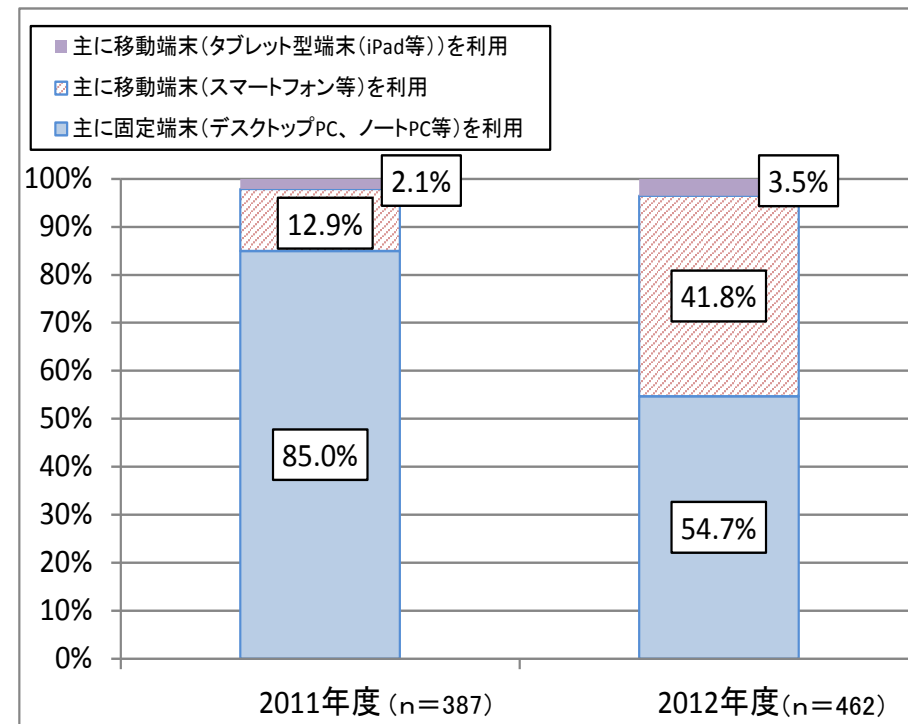
※番号を使わないソフトフォンに限る。



※前頁と同様にアンケート選択枝の中間値と構成比の加重平均値

【ソフトフォン利用時の端末の推移】

※番号を使わないソフトフォンに限る。



出所:競争評価2012利用者アンケート

事業者グループの状況(1)

- コンテンツ系については、国内市場では3グループとも展開に積極的であり、NTTとソフトバンクは海外にも進出。
- 今後、通信レイヤー内に閉じた連携サービスに限らず、隣接事業領域である上位レイヤーとの一体的なサービスが一般化すれば、垂直統合的な連携サービスについて改めて検討を要することとなる。

【通信事業者別の他業種への出資状況等】

		海外市場			国内市場		
		NTT	KDDI	Softbank	NTT	KDDI	Softbank
上位レイヤー	コンテンツ系	<div style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> 4社 6社 </div>	3社	<div style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> 1社 5社 2社 </div>	<div style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> 3社 4社 11社 </div>	1社 2社 6社	2社 5社 2社
	小売流通系			1社	2社 1社	1社	1社
	金融・決済系	1社			<div style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> 2社 6社 </div>	2社 1社 4社	1社

出資比率:50%以上 (赤)

出資比率:50%未満 (黄)

業務提携・議決権所有割合不明 (白)

事業者グループの状況 (2)

コンテンツ系/広告系
小売流通系
金融・決済系/その他

海外市場

国内市場

	NTT	KDDI	Softbank	NTT	KDDI	Softbank
出資比率: 50%以上	<ul style="list-style-type: none"> 星DOCOMO interTouch Pte. Ltd 米PacketVideo Corporation 独net mobile AG 泰Mobile Innovation Co. Ltd. 英 UD EUROPE Ltd. 		<ul style="list-style-type: none"> 印Bharti Softbank Holdings Pte. Ltd. 米Gilt Groupe Inc. 	<ul style="list-style-type: none"> mmbi D2C タワーレコード らでいっしゅぼーや オークローンマーケティング 	<ul style="list-style-type: none"> mediba ウェブマネー じぶん銀行 	<ul style="list-style-type: none"> TVバンク ビューン ギルト・グループ
出資比率: 50%未満			<ul style="list-style-type: none"> 中Synacast Corporation 中Renren Inc. 中Alibaba Group Holding Ltd. 星InMobi Pte. Ltd. 米Ustream, Inc. 	<ul style="list-style-type: none"> トウ・ディファクト エヌ・ティ・ティ・レゾナント エプリスタ エイベックス通信放送 マガシーク フェリカネットワークス 三井住友カード 	<ul style="list-style-type: none"> モバオク ブックリスタ 頓智ドット 	<ul style="list-style-type: none"> ヤフー ブロードメディア ガンホー・オンライン・エンターテイメント コンテンツバンク UULA
業務提携・ 議決権所有 割合不明	<ul style="list-style-type: none"> 米Eye-Fi, Inc 米Evernote Corporation 米English Central, Inc 台 ubitus, Inc 台 Cubie, Inc 比 Migo Entertainment Inc. 	<ul style="list-style-type: none"> 仏Total Immersion S.A 米Microfinance International Corporation 米TeraRecon, Inc 	<ul style="list-style-type: none"> 米Zynga Game Network, Inc. 米RockYou, Inc. 米PayPal, Inc. 	<ul style="list-style-type: none"> ディー・エヌ・エー Twitter Japan レコチヨク いであ 学研ホールディングス 日経BP 大日本印刷・CHIグループ セレゴ・ジャパン Retty アジャイルメディア・ネットワーク アルフレッドコア 東京海上日動火災保険 オムロンヘルスケア ペダル ドーコン アジア航測株式会社 インテージ 	<ul style="list-style-type: none"> グリー NHN Japan コロプラ 3rdKind レアジェブ ブランドダイアログ ローソン 楽天 ギフトィ スカイプ・テクノロジーズS.A. グルーボン・ジャパン 	<ul style="list-style-type: none"> ミクシィ ビットウェイ オリックス自動車

まとめ

- ✓ **市場間の連携サービスは、典型的な組合せとして固定型とFMC型が挙げられる。利用者アンケートによれば、固定型の利用割合は53%であるのに対し、FMC型は3%程度。**
- ✓ **固定型の連携サービスでは、事業者別利用割合が個々のサービスにおけるシェア構成と類似の傾向が見られる一方、市場集中度は低い。(FMC型については、回答数が少なく、現時点で判断をするのは難しい。)なお、連携サービスの利用者満足度は、個々のサービス全体における利用者満足度をそれぞれ超えている。**
- ✓ **ソフトフォンの利用率は高まりを見せているが、主に移動端末を利用する者の寄与度が高い。**
- ✓ **NTT、KDDI、ソフトバンクでは、上位レイヤーに進出しており、今後通信と隣接事業領域の間での新たな連携サービスが生まれてくる可能性がある。**